二〇二五年六月一三日

不揃ひもよしと青紫蘇庭に摘む　むべ
紫陽花の毬が塞ぎし小径かな　みきえ
紫陽花の色揉みあへる池鏡　康子
立ち漕ぎの止まりそうなる坂薄暑　なつき

二〇二五年六月一二日

嶮競ふメタセコイヤの径涼し　えいじ
新緑に吸ひ込まれゆく試歩の杖　うつぎ
注連古りて榧の大樹の苔涼し　あひる

二〇二五年六月一一日

豆蔦の虜となりし岩涼し　あひる
日矢さして水平線に大き虹　なつき

二〇二五年六月一〇日

紫陽花哀れ夜来の雨に打ち伏しぬ　董雨
砂糖壺空となりたり梅仕事　澄子
叡山も煙雨がくれや梅雨に入る　もとこ

二〇二五年六月九日

買つて出る老母の介助帰省の子　あひる
濡れていく事も楽しき緑雨かな　もとこ
ハンカチにつつむ貝殻シーグラス　なつき
大西瓜おすわりの子と対しけり　康子

二〇二五年六月八日

里山の闇に閃く虫送り　山椒

二〇二五年六月七日

閼伽の水注ぎ励ますかたつむり　康子
大梁に玉葱吊るす旧家かな　澄子
木漏れ日を散らし散らして竹落葉　康子
樹下涼し苑を統べたる大欅　澄子

毎日句会みのる選・二〇二五年六月一五日